



国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH



■創立■ 1964年3月2日 ■例会日■ 毎・金曜日12時30分 ■例会場■ オークラ千葉ホテル
 ■会長■ 杉本 峰康 ■幹事■ 酒井 秀大 ■会報委員長■ 石井 慎一
 ■事務局■ 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2019-20年度

第2691回

2019年9月13日(金)点鐘12:30 《曇り》

- ◆ロータリーソング『我等の生業』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

◇本日の卓話者／地区RLI推進委員会
 委員 清田浩義様
 委員 山本 衛様

◆会長挨拶及び報告 杉本 峰康会長



皆さん、こんにちは。本日は、地区 RLI 推進委員の清田様、山本様、ようこそいらっしゃいました。後ほど卓話を楽しみにしております。よろしくお願い致します。

先程にもありましたように台風の甚大な被害を受けていらっしゃる会員の方も結構いらっしゃいます。

心よりお見舞いを申し上げたいと思います。何かクラブでできることがあれば、皆さんと協力してやっていきたいとは思っておりますので、よろしくお願い致します。

千葉北 RC 栗原賢一名誉会員が、お亡くなりになったということで、訃報が届いております。千葉西 RC、千葉東 RC、千葉北 RC と、この3クラブの会長をされた方で、千葉南だけ所属されてないということで、以前、この例会でおっしゃっておられました。お通夜は9月14日(土)、18時30分より、告別式は、9月15日(日)、10時30分よりライフケア千葉会堂で、行われます。

また、ガバナーから連絡が来ております。今回の当地

区も台風で、甚大な被害を受けたのですが、九州も集中豪雨で第2740地区から、義援金の要請が来ております。ガバナーから連絡文書を読ませて頂きます。「いつも大変お世話になっております。台風15号では、各会員の皆様も被害を受けていることと存じます。お見舞い申し上げます。お怪我などは大丈夫でしょうか。さて、先日、ガバナー会より、第2740地区九州北部豪雨災害につきまして、支援依頼がございました。クラブ単位での支援を呼びかけようかと思いましたが、当地区でも、今回の15号台風の直撃を受け、未曾有の暴風雨の襲来でしたので、あえてクラブへの要請は致しません。第2740地区、集中豪雨の被災に対する義援金につきましては、ガバナー権限にて地区一括で、災害特別金より、50万円を支出して、送金するという事に致しました。」と、いうようなことが諸岡ガバナーから報告が来ております。

地区補助金を利用した「大連障害者施設支援奉仕プロジェクト」として、9月15日(日)～17日(火)2泊3日で障害者施設に物品の贈呈式に行ってまいります。今回、斎藤会員と大塚会員も一緒に行く予定でしたが、台風被害で行けなくなってしまいましたので、私と酒井幹事と合わせて9名で行ってまいります。その報告は追って、させていただきますのでよろしくお願い致します。

今日は、素晴らしい卓話が控えておりますので、簡単ではございますが、会長挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

◆委員会報告

親睦活動委員会(ゴルフ会担当:末吉弥和会員)
 CSRゴルフ会⇒ 11月8日(金) 袖ヶ浦・新袖コースにて

◆幹事報告 酒井 秀大幹事

◇次週 20日(金)は、定款により休会です。
 ◇27日(金)、ガバナー補佐訪問でクラブ協議会となっております。委員長の皆さん、宜しくお願い致します。

◆ニコニコボックス報告

《杉本 峰康会長、酒井 秀大幹事》

先日襲来した台風15号は、凄まじい風と雨の音で千葉を震えあがらせました。眠れなかった方も多くおられたことと存じます。被害に遭われた方には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、本日は、地区よりRLI推進委員の方に卓話をお

願っております。清田様、山本様、どうぞよろしくお願
い申し上げます。

《五十嵐博章会員》

清田様、山本様、ようこそお越し下さいました。後ほど、R
LIについての卓話、宜しくお願いします。

《北原 俊彦会員》

今回の台風で、記念に植えた桜の木50本が心配で
す。

本日のニコニコボックス	5,000 円	累計	100,000 円
金の箱	0 円	累計	636 円
ポリオ・プラス	0 円	累計	0 円

◆出席報告 (会員数47名)

出席者数	欠席者数	ビシター	8/30 修正出席率
25名	22名	2名	100 %

千葉市内例会変更のご案内 [メニュー](#) [キャップ](#) [にご利用下さい。](#)

千葉RC	月	—	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	—	センシティタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	—	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	10/16・10/30	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水		ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	10/24・10/31	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	10/10・10/17	京成ホテルミラマーレ

本日の卓話

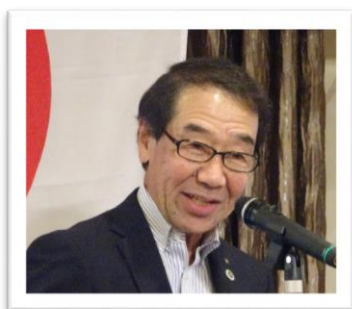
演 題⇒「RLIについて」

卓話者⇒ 国際ロータリー第2790地区

RLI 推進委員会

委員 清田 浩義様

委員 山本 衛様



皆さん、こんにちは。
只今、ご紹介を頂きました RLI 推進委員会の
清田でございます。今日
は山本さんにも、RLI
推進委員の山本さんにも
一緒に来て頂いて、2
人で RLI についての説
明をさせて頂きたいと
思います。

まずは、このお話の前にお話されていたように、台風1
5号、私も緑区で結構木が周りがあるんですけども、沢
山倒れてまして、千葉県は気候的には、安心して住める
なんて言うてましたら、こうやって台風が、コンパクトな強

い台風が来て、あっという間に一晩、何時間のうちにこれ
だけ被害が起きてしまったということで、非常に驚いても
いますし、また、まだまだ、停電で、辛い生活をされている
方も、いらっしゃるといことで、非常に心苦しく思うところ
でございます。改めて、お見舞いを申し上げながら、お
話をすすめさせていただきたいと思ひます。

今日はずいぶん、RLI の、ロータリー・リーダーシップ研
究会、ということで、今日、お出での方で、参加された方、
いらっしゃいますか？(会場 挙手 数名。)あっ、三神さ
ん資格を、DL の資格を持っていらっしゃいますし、それ
から竹尾さんも、資格を持っていらっしゃって、あと、千
葉南クラブのお二人、このなかに、RLI、ロータリー・リー
ダーシップ研究会お出で頂いて、どうもありがとうございます。
4 名の方が、過去に参加を頂いているということで、
是非、三神さん、それから、竹尾さん、私のお話のサポ
ート役を、是非、して頂きたいと思ひます。まずは最初に、
RLIのテキストを置かせて頂きましたけれども、RLIがどん
なものなのかということ、より知って頂くというのが、
我々のテーマです。まず、ビデオを見て頂いて、RLIとい
うのは、こんなもんだというのを、ちょっと、知って頂きな
がら、話を進めていきたいと思ひます。(RLI 実践ビデオ
を配信した。DL 役は、今野前 RLI 推進委員長)たまたま
去年、一昨年に、RLI のセッションをやったときの風景で
す。RLI のセッションというのは、こんな感じでやっている
というのを、ちょっとビデオを見て頂いて。皆さん、ご存知
の方が、お出でかもしれません。ちょっと、声が聞きにく
いかもしれませんが、このセッションは、「クラブを強くす
る。」という、そういうテーマでの強いクラブをつくる。そん
なテーマのセッションです。強いクラブを作るのに、どう
いう風なやり方があるかということ、皆さんで、討議をし
ている、そんな場面であります。皆さんご存知のかたもい
るかもしれません。千葉西 RC の今野さんが、ディスカッ
ションリーダー(以下 DL)をやって、三神さんにも、竹尾
さんにも DL として、皆さんのお話を聞いて頂く役割をお
願ひすることがあります。今日は、私と山本さんのミッシ
ョンは、来年の2月から、研究会が始まりますので、最低、
何人くらいの方に参加していただけるか、最後に手を挙
げて頂きたいと、そんな、風に思っております。少し、こ
の雰囲気を見て頂けたらと。(ここで、ビデオ配信を終
了。)このような形でセッションを進めています。

それではこれから、ちょっと私のほうから、パワーポ
イントをお話をさせて頂きたいと思ひます。今日の、今、
DVD を見て頂いて、セッションはこういう形で進んでい
るんだな—というのをご理解頂けたと思ひます。それから、
そもそも、ロータリー・リーダーシップ研究会とは、どんな
ものかということ、お話をさせて頂き、ロータリー・リー
ダーシップ研究会というのは、国内だけではなくて、全世
界のロータリークラブのなかで、すすめている研究部門。
研究プログラムです。全世界、どんな風にすすめている
のか、それから日本の現状も含めてお話をさせて頂き、
最後に、今、セッションを見て頂きましたけれども、ロー
タリー・リーダーシップ研究会は、こんな風にすすめている
んだよ—というのを見て頂いて、今日のお話をさせて頂
きたいと思ひます。まずは、皆様もそうかもしれませんし、

三神さん、竹尾さんもそうかもしれませんが、私もロータリークラブに入って、10年になります。丁度、10年目で、今、千葉ロータリークラブの会長を仰せつかっていますけれども、千葉ロータリークラブのこんな話をすると、怒られるかもしれませんが、皆さんも多分、先輩の皆さんも、「千葉ロータリークラブは何もしないクラブ」だというのが定説だという風に、思われている方もいらっしゃるかもしれません。私も入会して5年間、ほぼ何もせずに、例会に出て、昼食を食べて帰る。という生活、クラブライフを5年間。それはそれで、楽しかったんですけども、ちょうど5年目に幹事になるときに、ロータリー・リーダーシップ研究会というのがあるから、幹事やるんなら、勉強して来いということで、参加させて頂いたのが、そもそもの出会いです。諸岡ガバナールもお話されてますけれども、何も知らない私が、RLIに、ロータリー・リーダーシップ研究会に参加して、ロータリーというのは、こういうものだ、というのを、ですね、浅く広く知ることが出来ました。先程、五十嵐研修委員長とお話したら、来年、私も出ると、(会場ざわざわ)こんな風に宣言して頂いたのもう、もう五十嵐さんは、ロータリーについてよく知ってらっしゃると思いますけれども、より、幅広く、ロータリーを知ることができる、そんな研究会、という風に思っています。

RLI、ロータリー・リーダーシップ研究会を総じてRLIという風に、呼ばせて頂いておりますけれども、我々も推進委員会のほうでもいろいろ議論をするんですけども、これは決して、研修会ではない。研修会ではない。研究会だというのが、私は、ミンだなという風に思っています。研究会というのは、その場に参加して、自分が自らラボのなかで、いろんなことを語り合い、自分自身が「気付き」を持って帰ってくる。こういう場です。研修会という、どちらかという話を聞いて、その話に、「そうだな。」、「そうだな。」と、思うか、「そうじゃない。」、「そうじゃない。」と思うかして、ストレスを溜めながら帰る。というのが、一般的な研修、研修会ですけども、このRLIは、研究会ということですので、さっき見て頂いたような、ああいうセッションをしながら、それぞれ、お土産を持って帰る。という話、事でありまして。あわせて、ここに書いてありますが、草の根運動ということで、あとでお題になりますが、1992年にアメリカで始まった、研究会です。よくロータリーの地区の方々、おっしゃいますけれども、RLIは、RIのプログラムなのか、どうなのか？と、こういう話になって。RIが決めたプログラムであるとか、ないとか、ということが話題になることがあります。RIが承認をして、推奨をしていますけれども、RIのプログラムではない。その辺が、草の根運動という、こんな呼び方に繋がるのかもしれませんが。さて、RLI、ロータリアンがロータリーへの思いを自由に語り合い、個々のモチベーションを確実に高めていく、語りの場。何回もお話しますが、RLIは、話しに行く場です。聞いてばかりいると、どうも面白なくて、自分が、ロータリーとは、私はこう思っている。ということ、皆さんで話し合いながら、そのなかで「気付き」を深めていく場。まさにここに書いてある、研修の場には違いないが、ロータリーを語ろう。ということで、語り合うというのが、このRLIの特徴であります。あと、私もそうですし、三神さん、

竹尾さんも、もしかしたら、同じく感じていらっしゃるかもしれないけども、私も千葉RCで、クラブのなかで、クラブのメンバーと話をしていると、毎回同じ話が繰り返えされますが、他クラブの方と、本当にフランクに、会って、話ができるのが、このRLIの、私は醍醐味だろうという風に思います。まさに、語りの場、出会いの場、三神さん、その辺にハマっちゃってますよね。(会場 笑)なかなかクラブのなかで話せないことも、RLIに来ると、「俺のクラブは、実は、こうなんだよ!!」という話が、なかなかクラブのなかでは、自分のクラブの、言いにくい話って、できないもの、どこのクラブも良いところもあれば、悪いところもある。という話を、RLIの場で、皆さんと話し合いながら、「いや、そんな事言ったって、それは、あなたのクラブの悪いところではなくて、うちだってそうだよ。」という話を、結構そういう、やり取りが沢山出てきます。そして、私自身も、参加者の一人として、思いますけれども、RLIの参加者、ここに書いてありますけれども、RLI参加者のゴールは、RLIというのは、パートIから、パートIIIまで、皆さんお手元にテキストがあって、テキストを御覧になると、パートIからパートIIIまで、一日6セッション、3日間のコースなんですけれども、3日間の研修、研究会で参加をして、最後、どういうゴール、3日出た後に、どんなところを自分の落としどころにするのか、という、RLI参加者のゴールは、書いてありますけれども、私も、そうだなと思いますけれども、ロータリアンとしての成長と、ロータリー観の確立。私も10年になってですね、ロータリアンの成長って、何か？とったりもするんですけども、まだ、金親さんなんかは達観されていると思いますが、私なりにまだ、ロータリアンの成長ってなんなのかなって、いつももがいていたりします。あわせて、ロータリー観、たぶん、南ロータリークラブのなかでも、ロータリーについて話し合うことがあると思いますが、今、杉本会長、ちょうど10年でいらっしゃるんですね。やっぱり入会して間もない方が、考えるロータリークラブとは？それから、私もそうでしたが、「入りて学び、出でて奉仕」という言葉があって、たしかにロータリーって、皆さんと会って、色んなことを勉強して、自分の会社の経営に戻る。それで、まさに、「入りて学び、出でて奉仕」これは、ロータリーらしい、私にとっては非常に素晴らしい言葉だなあと感じる場面、今もそう思ってますけれども、まさにロータリアンというのは、ロータリー観というのは、会員ひとりひとりが自分にとってロータリーとは、こういうものだ、という、そのあり様を、自分のなかで整理していく、ということではないのかなと、ロータリー観の確立、何が正しいとか、何が正しくないとかいうことではなくて、私がロータリーに参加をしている意味は、何なのかということ、考えるきっかけになるのが、このRLIではないかなという風に、私は思っております。

今、お話しをしたところが、RLIとは何なのかという全体像です。これからは、RLIの歴史について、お話ししたいと思います。先程、ちょっと話しましたが、1992年、アメリカ、ニュージャージー州の元RI理事、リンネットさんという方が、発案して始められた、多地区の草の根組織、と、こういうことになっています。今、杉本会長と話をしていて、保険のお仕事なので、ちょうど、1992年というのは、平成

4年になるのかな？平成4年ごろですね。まさにバブルがはじけて、護送船団である日本の金融会が、形が変わっていくという。まさにロータリー、世界のロータリーも、1905年にポール・ハリスが始めて、どんどんどんクラブが、クラブの数が、多くなり、会員数が増えていきましたけれども、ある時点から、会員数が増えない。むしろ、例えば、アメリカにせよ、日本にせよ、ロータリークラブの会員がどんどん減ってしまうという時期を迎えました。多分、そのなかで、今RIが推奨するDLP、CLP、それから、未来の夢計画、というのが、戦略計画が、出てきたんだろうという風に思います。私も経営していて、思うんですけども、組織が常に成長するためには、どこかで変革をしていかなければならない。ロータリーも基本的には社交的な色合いでやっていた、ロータリークラブの組織が、ロータリー、社交クラブだけでは、成長していけないという風な、思いのなかで、RIがいろいろなプログラムを考え、いろんな仕組みを作ってきたんだろう。それがまさに戦略計画であり、DLP、CLPにつながる。まさに、そういう時期を同じくして、わが社でもそうなんです、リーダーシップとは、ロータリー・リーダーシップ研究会、リーダーシップのあり方なんです。日本でも、そうだと思いますね。「俺について来い」というリーダーシップのあり方が、もう通用しなくなり、リーダーシップの取り方が、どんどん変わって、間違いなく、今は、そういうことだと思いますが、そういう中で、何をもって、リーダーシップと呼べるのか？という。当時、企業組織でいうと、コーチングとか、あるいは、ファシリテーションとか、いう様な、みんなで話し合いながら、そのなかで、合議でテーマを見つけていく。そして、組織が進んでいく。そんな流れが1992年、こんな時代だったんだろうと思います。そういう時代に、リンネットさんという方が、このRLIを始めたところなんです。そして、今、27年が経ちますけれども、1992年から27年、経ちますけれども、世界420地区、それから、日本の24地区のロータリークラブが、このRLIを取り入れてます。全世界、今、532地区あって、そのうちの420地区ですから、8割以上の地区が、もう始めている。で、国内でも、今24地区、第2790地区も始めて10年になりますけれども、24地区です。さっき山本さんと話をしている、3年前まで、14地区だったんです。第2790地区は10年前から始めてますけれども、ある意味では、「これは、なかなか面白いぞ。」あるいは、これは何かの役に立ちそうだということで、国内の地区が、俺の地区もやるという、手を挙げて、この3・4年で20地区ぐらい増えております。これからの地区も、また増えるという。そういう意味では、これから最後に、カリキュラムこうだという話をしますが、これは、なんとか行けそうだなと、いう感じで、広がっているように、私も思いますし、自ら、推進、実行、実践側として、お話をさせて頂ければ、千葉クラブも20名ぐらいの参加者がいて、それで資格をもっている人も7・8人います。少しずつ例会のやり方、も含めて、ロータリーの形をこういう手法をもって、変えていくのもいいんじゃないかという風な、波のような気が致します。

今、ご覧のように、第2790地区のRLI、2010-11年亡くなりましたけれども、織田PDGのときから、始まっていま

す。そして今年が丁度、10年ということになっております。RLIを推進する側からいうと、10年の節目に、もうワンステップ、次のステージに上げていこうと、こんな風に考えているところです。この第2790地区では、参加者434名、そのうち地区内が358名と書いてあります。実はですね、評判が良いのかどうかわかりませんが、他地区からですね、この第2790地区のRLIに参加をしてみたいと、東京もいくつか地区があるのですが、その東京の中のいくつかの地区でも、やっとはじまったところですけども、そういう他地区の方が、第2790地区のRLI研究会に参加して、勉強したいということで、結構参加をされている方が、いらっしゃいます。パート修了者154名、そして、DL資格を持っていらっしゃるのが、116名。まさに、竹尾さん、三神さんも、資格を持っていらっしゃって、是非、資格を、お取りいただけるようにがんばって頂ければと思います。資格をとることが目的はありませんけれども、長くRLI活動に参加を頂きたいという風に思っています。ちょうどこの第2790地区は、今年度10年目という節目であります。今日の我々二人のミッションはですね、RLI推進委員会。推進委員会は、第2790地区にRLIをいかに普及するかということと、それから、RLIのいかに実践するか、この二つが、テーマです。今日はどちらかという、普及員ということで、この後、私の話を聞いた後ですね、「行ってみようかな」という気持ちになって頂く方が、より多ければ多いほど、普及員としての使命を果たせたということになりますので、義理でも結構でございますから、是非、来年、御参加頂きたいという風に思います。字が細かくて、わかりづらいのですが、第2790地区83クラブありますけれども、17のクラブは、まだ参加を頂いた方がいない、そういう現状なので、今、話したように、普及担当としては、まだ参加をされていないクラブの方になんとか、参加を頂けるように、普及をしていきたいとも、考えています。

さて、ここからは、先ほど、ビデオで少しみて頂きましたけれども、ロータリー、RLIとは、何をするのかを、お話したいと思います。皆様のお手元、数が少なくても、ちょっと御覧になりにくいかもしれませんが、結構うまく、このプログラムは、パートIからパートIIIまで、基本的には全世界同じ、カリキュラムで、研究会をすすめています。当然、日本の場合では、日本語になってますが、全世界で同じカリキュラムです。御覧になりにくいかもしれませんが、パートI、パートII、パートIII、という風にありまして、パートIは、「ロータリアンとしての私。」というテーマです。パートIIは、「私たちのクラブ」というテーマです。パートIIIは、「私のロータリーの旅」というテーマです。1回目、2回目、3回目で、それぞれテーマが違ってきます。五十嵐さん、最初に2月1日ですけども、御参加頂いて、最初のセッションですね、「ロータリーにおけるリーダーシップ」というセッションから、始まります。で、ここにリーダーシップと奉仕と、会員組織の強化、組織とリーダーシップと奉仕、この3つが、うまく、毎回毎回、1回目、2回目、3回目と、リーダーシップのテーマ、奉仕に関するテーマ、そして組織機構に関するテーマというのが、1回目、2回目、3回目のなかにうまく、織り込まれています。

織り込まれているなかで、1回目は、ロータリアンとしての私。自分自身にとってのロータリーは、どういう風に考えるべきかということテーマにすすめていきます。パートIIでは、今回、杉本会長いらっしゃいますけれども、クラブをどう強くするか、自分たちのクラブがどうあったら良いのか。ということ、テーマにして、話し合うのが、パートIIです。そしてこのパートIII、なかなかテーマ付けも面白いと思うのですが、私のロータリーの旅、という。ロータリーには卒業がないと言いますので、私は10年ですけれども、これから10年、15年、20年、30年と、ロータリーの旅を続けながら、どんな風に自分としてのロータリー観を高めていくか。そんなことをテーマに、この3回目のパートIIIが、内容がつられています。この辺が、なかなか、アメリカのリンネットさんが、創始者ですが、うまく作っているなと思います。今、お話ししたように、全世界共通のテーマ、日本の場合はですね、米山奨学制度のことも出ていて、その地域地域の特性を反映したカリキュラムが、できているということでもあります。今日は、テキスト、それは実はですね、もう古いというか、本来そこには、2018-22年 22年まで使えるはずだったんですが、実は、急に新しいテキストが出来てしまってますね、推進委員会、少し、買いだめしといたヤツが、在庫が残っていますので、大きく内容が違っているわけではありませんので、御覧になって頂いて、こういうものだ、ちょっと知って、いただければということで、置いてまいりますので。さて、最後に、なりますけれども、ロータリー・リーダーシップ研究会、参加者の声ですね。今日は、参加者の声。お聞きしたいと思いますが、竹尾さん。参加して、参加者の声、是非、聞かせて頂けると、もしよろしければ、私の横に座っていただけると、非常に心強いで。すみません。竹尾 私も、眠気を覚ましなが、(会場 笑)参加して、昨年、DL まで取りました。なかなか大変ですけども、参加することに意義があつてですね、なんでもロータリーの事が、わかってきますので、皆さん、是非、参加してください。以上です。(会場 拍手 拍手)



竹尾会員 清田様



山本様



五十嵐会員 三神会員 清田様 杉本会長

第2692回例会

《ガバナー補佐訪問・クラブ協議会》

日時⇒ 2019年9月27日(金) 点鐘12:30

会場⇒ オークラ千葉ホテル

第2693回例会

日時⇒ 2019年10月4日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 会員卓話 高橋 豊会員

会報担当：松尾 博之

はい。ありがとうございます。貴重な参加者の声を聞かせていただきました。本当にありがとうございました。ちょうど時間になりました。まさにロータリーは、終わりのない旅ということになると思いますが、皆さんもご存知の方、いらっしゃるかもしれませんが、RI 元会長、ウィリアム・R・ロビンスさん。ロータリーは、成人教育の最もすぐれた実験場である。ロータリーの第一の目的は、親睦と奉仕を通して人を育てることである。クラブの価値は、そのクラブが、いかなる人材を育てたかによって計られる。それ以外の何があるであろうか。

という話があり、私も、そうだなあと、少しずつ、思うところであります。RLI、ロータリー・リーダーシップ研究会のお話をさせていただきました。冒頭お話ししたように、より多くの皆さんが参加頂いて、先程のお話のように、何かそこで、「気付き」を得て、そして、クラブへ持ち帰り、クラブの活性化に繋げて頂ければ、幸いです。

本日は、ご静聴ありがとうございました。

今後ともよろしくお願い致します。